

教科(科目)	現代社会	単位数(時数)	2単位(74)	学年(科)	2学年(国際文化科)
使用教科書	・第一学習社『高等学校 改訂版 現代社会』				
副教材等	・とうほう『政治・経済資料』 ・東京法令出版株式会社『ニューコンパスノート政治・経済』 ・実教出版『高校政治・経済 新訂版』				

### 1. 学習目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を育てる。

### 2. 指導の重点

- ①現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高めさせ、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。
- ②現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。

### 3. 評価規準と評価方法

- ・現代社会を理解する上で必要となる基本事項や追究の方法を理解し、その知識を身につけている。  
(知識・理解)
  - ・現代社会の諸問題を理解し、公共の福祉や公正といった観点から判断、表現をすることができる。  
(思考・判断・表現)
  - ・現代社会の基本事項から、諸問題を導き出し、その問題の解決策等を導こうとしている。  
(関心・意欲・態度)
  - ・統計資料・画像・映像・動画などから必要な情報を収集、選択し、それらを使ってまとめることができる。  
(資料活用の技能)
- その他、上記の評価事項を踏まえて、小テストの成績、定期考査の成績、提出物などから総合的に評価する。

### 4. 学習アドバイス

- ①現代社会は予習より復習重視の科目である。授業後すぐに、ノートの見直しや教科書・資料集による復習を行うと効果的。
- ②新聞やニュースは現代社会で扱う事項の宝庫である。日々起こっている出来事に興味をもち、その背景を考えてみることで、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながる。

(担当：馬場 隆史)

月	単元・考査等	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	1 現代に生きる私たちの課題	6	地球環境問題 資源エネルギー問題	地球環境問題や資源エネルギー問題について学習する。
5	3 現代の経済社会と私たちの生活	6	市場機構 企業のはたらき	経済の基本理論と資本主義経済の特徴を歴史的展開の中で理解する。
6	3 現代の経済社会と私たちの生活 (中間考査)	6	国民所得と景気変動 金融と財政	経済概況を把握する手法を学び、日本の金融・財政の現状と課題を学ぶ。
7 8	3 現代の経済社会と私たちの生活	7	中小企業・公害 労働・社会保障	日本経済の現状と、労働問題、社会保障問題等について理解する。
9	4 国際経済の動向と日本の役割 (期末考査)	7	国際経済の動向 貿易の拡大と摩擦 南北問題	国際経済の動向や、貿易の拡大と摩擦などについて学ぶ
10	4 現代の民主政治と私たちの生活	8	基本的人権 日本国憲法	民主主義を支える思想や、日本国憲法の特徴を学ぶ。
11	4 現代の民主政治と私たちの生活	7	政治機構 裁判所	行政・立法・司法の機構のあり方と課題について理解する。
12	5 現代の民主政治と私たちの生活 (中間考査)	7	地方自治 選挙と政党	地方自治や選挙制度を学ぶことで、民主政治の現状を理解する。
1	6 国際社会の動向と日本の役割	7	国際社会と国際法 国際組織・国際政治	国際社会における諸機構や制度について広い視野で学ぶ。
2	6 国際社会の動向と日本の役割	6	人種・民族問題 核兵器と軍縮	紛争の原因となる問題の背景や、軍縮について学ぶ。
3	1 現代社会の特質 地社会生活の変化 2 現代に生きる青年 (期末考査)	5	高度情報社会 国際化 青年期と自己の形成	これまでの学習を総括し、生徒自身が主体的にテーマを定め、思考・判断・表現する機会をつくる。青年期の問題では「職業生活の意義」や「社会参加」に重きをおき、二年次のキャリア教育にもつながるよう学習していく。
	ともに生きる社会を目指す	2		「どのような社会が理想的な社会なのか」ということをこれまで学習してきたことを使いながら考える。

計 74 時間 (48 分授業)